

あの時の

—  
THE BLUE  
LOVE LETTER  
AT THAT  
MOMENT

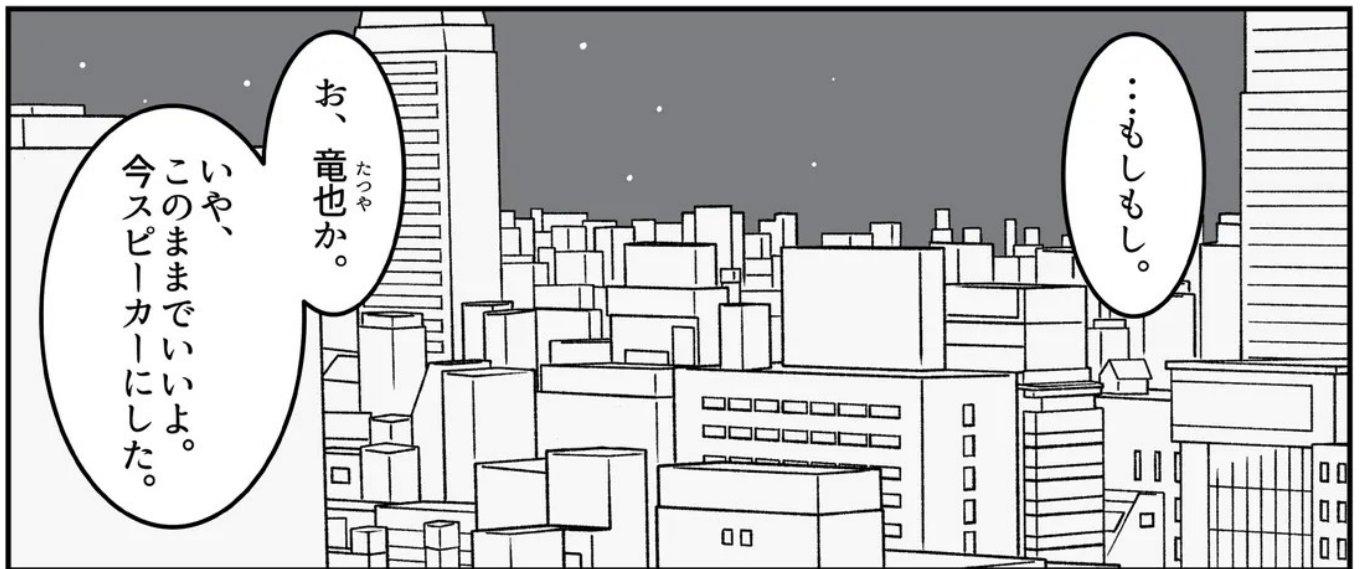
青いラブレター

あの時の

青いラブレター

R-18  
ADULT  
ONLY

THE BLUE LOVE LETTER AT THAT MOMENT

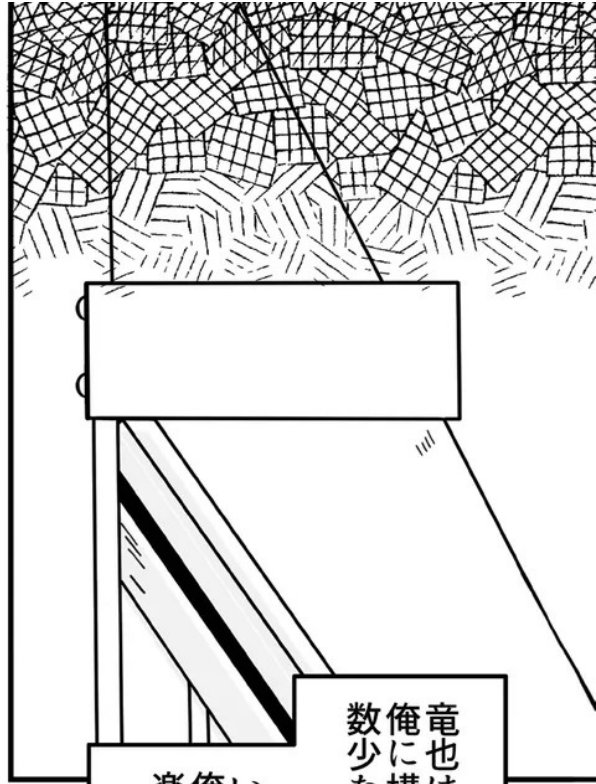






俺の高校時代は  
まあ、普通：  
ではなかったかな

俺は、いつも  
席に座って何か  
描いてるような  
やつだった



竜也はそんな  
俺に構ってくれる  
数少ない友人だった

いつも隣の席を陣取り、  
俺が描いた漫画を  
楽しく読んでくれた、



そして俺は  
やつの素直で  
まっすぐな所に  
惹かれ始め：

密かに…想いを  
寄せていた。



俺の初の読者でもあり  
片思いの相手でも  
あった竜也は

単調な俺の高校生活を  
青く彩ってくれた  
掛け替えのない  
親友であった。

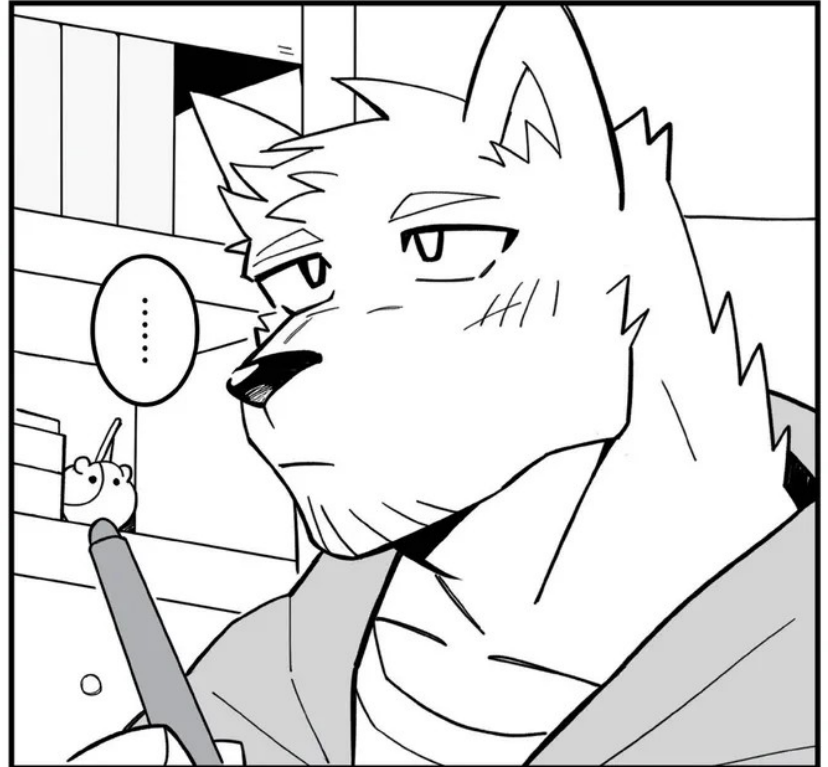
まあ、成人してからは  
お互い忙しくなって、  
最近はちよつと  
疎遠気味だけど

また会って色々  
語り合おうって  
そう言いながら  
別れの挨拶を交わした



…もう何年も  
前の話か。

早いもんだな  
時の流れって  
やつは。



どう変わってるかな  
やつぱり気になって  
しまうな…

好きな人、  
出来てるかな…？

おーい！  
りよーすけ！

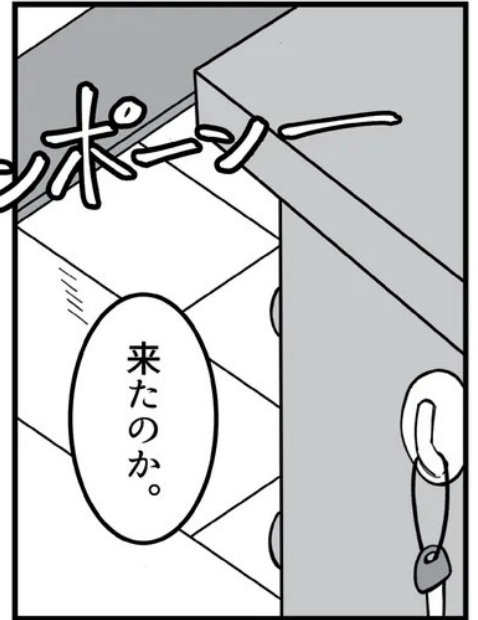
オレだぞー！





いま  
開けるよ。

ピンポン



来たのか。



いらっしやい、  
竜也。

元気そうで  
何より。



おー！  
久しぶりだな、  
良助！  
りよすけ

お邪魔します！  
手ぶらで来るのも  
あれだし色々  
買って来たぞー！





お？



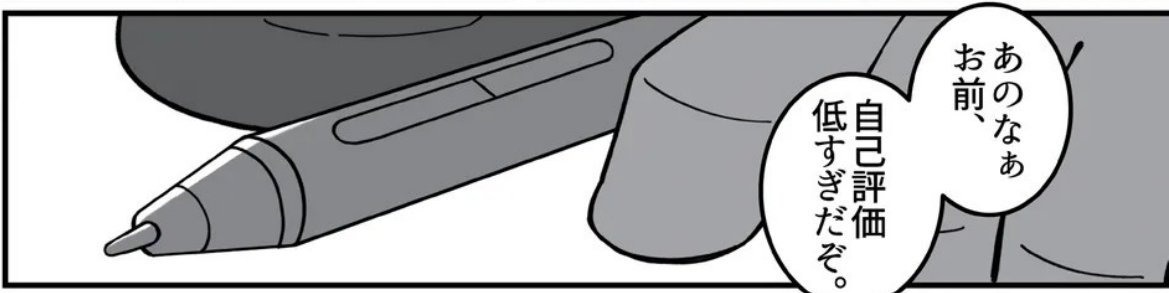
漫画、まだ描いてるんか。

まあね。

高校の時からずつとやってるんだろ？  
凄いよなー

：別に。描き以外  
特技って言える  
物もないし：

だからやり  
続けてるだけ。



あのなあ  
お前、

自己評価  
低すぎだぞ。



：なんだよ



そうやって  
人の心を  
惑わすような事  
言いやがって：



昔も同じ事  
言った気が  
するけどさ。

オレは：  
お前のこと、  
本当に凄い  
思ってる。

好きな  
事とは言え、

そう何年も  
続けられるなんて  
中々出来ない  
事だと思うよ。



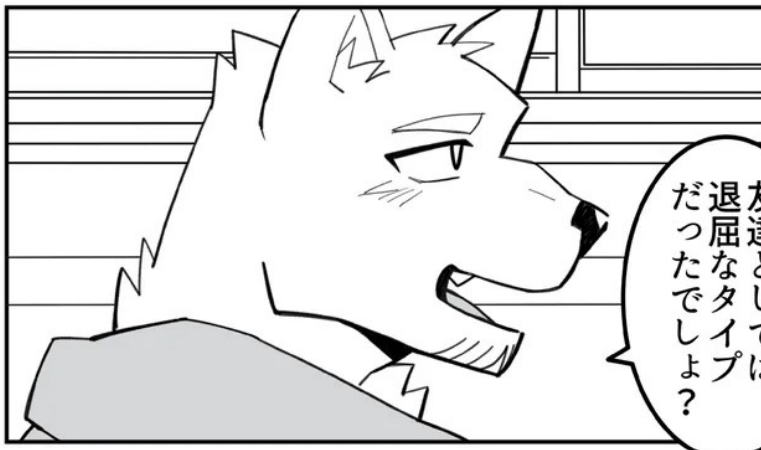


ずっとやってる、  
って聞こえは  
いいけどね

このままで  
いいのかなー  
って思うことも  
あるよ。



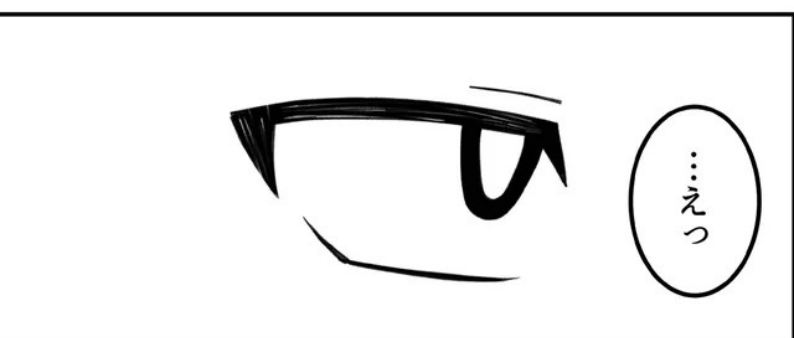
でも驚いたぜ。  
未だにお絵描き  
頑張ってる  
なんてさ。



友達としては  
退屈なタイプ  
だったでしょ？

今だから  
言えるけど  
俺って、

昔からこうやって  
引きこもって  
お絵描きばかり  
だったし。

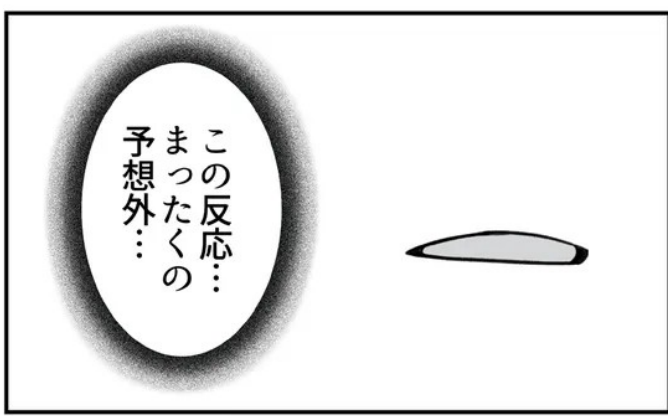


…えっ

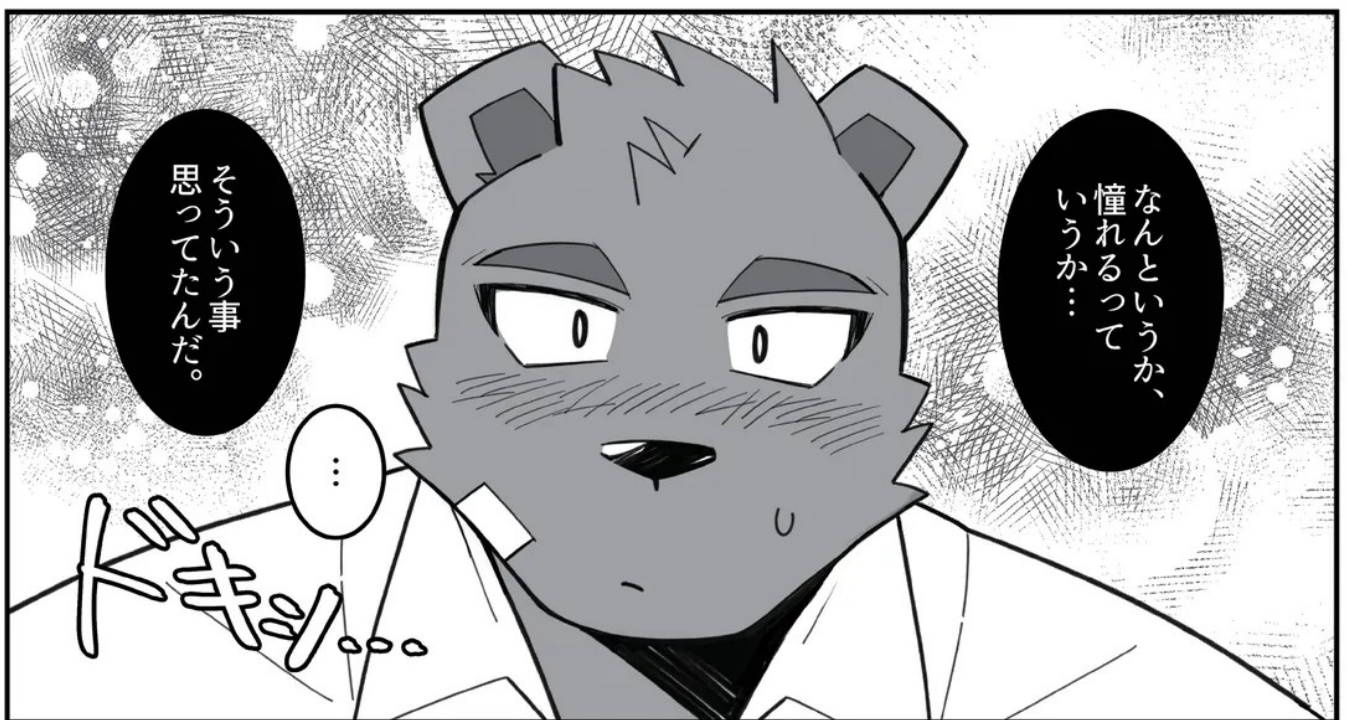
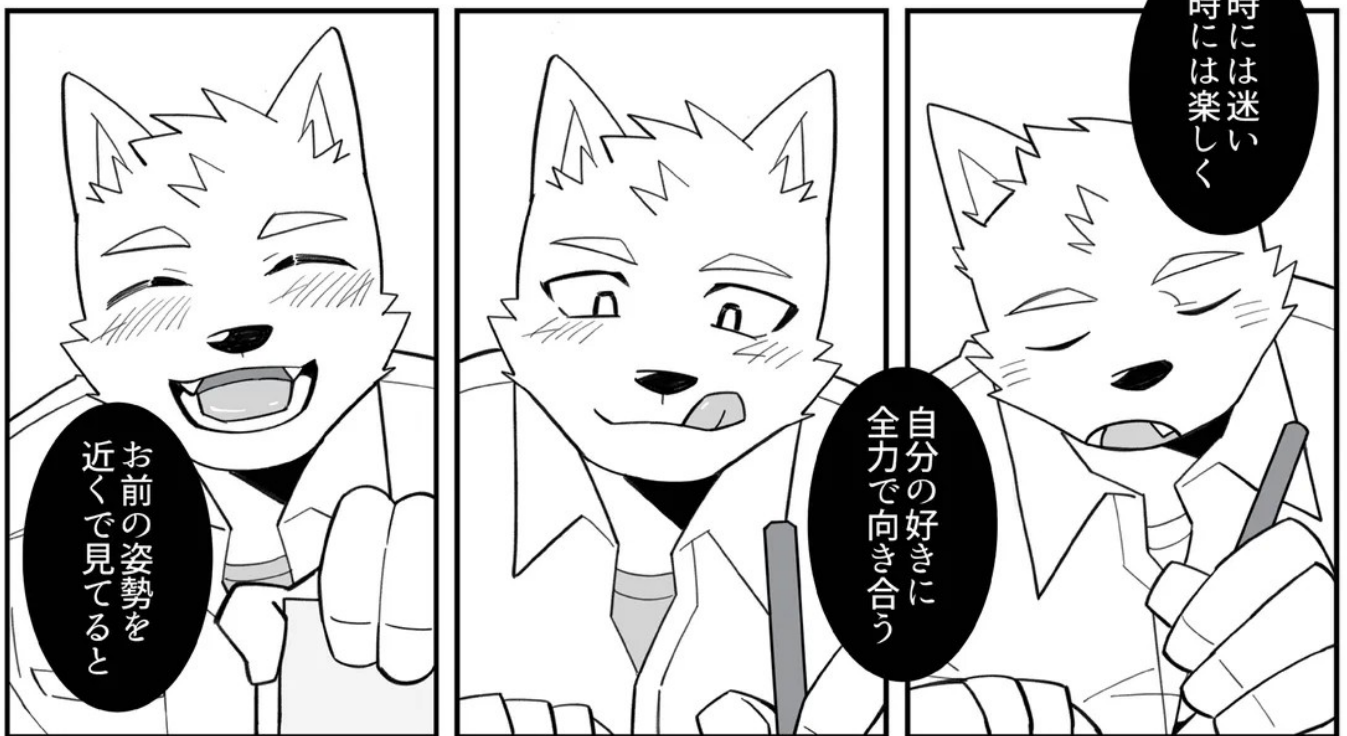


いや？

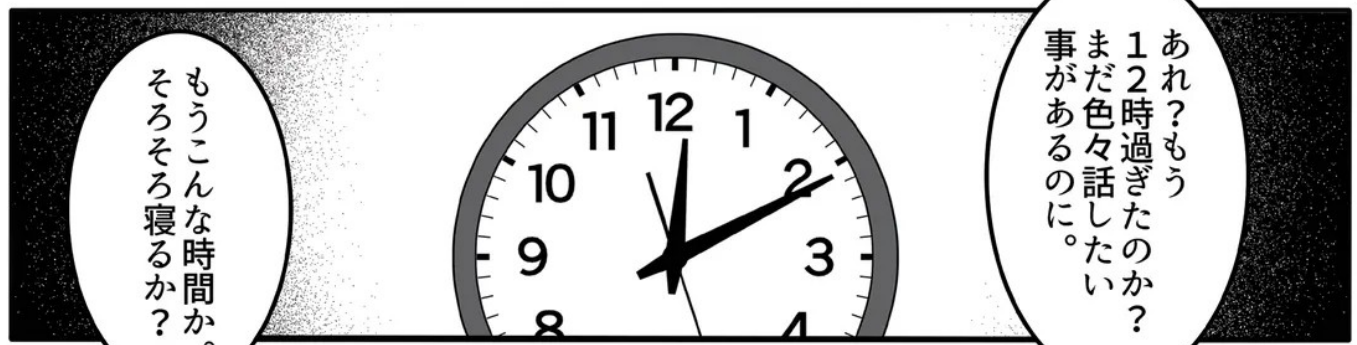
オレ、  
良助と一緒に  
いるの普通に  
楽しかったよ？



この反応…  
まったくの  
予想外…

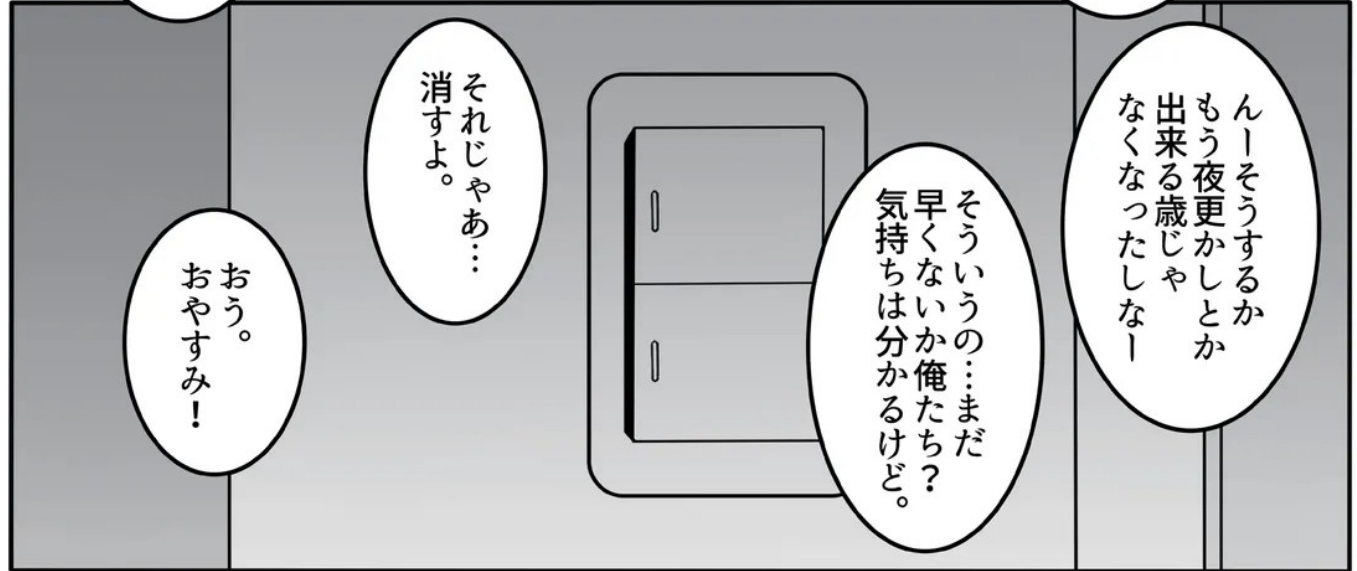






あれ？もう  
12時過ぎたのか？  
まだ色々話したい  
事があるのに。

もうこんな時間か。  
そろそろ寝るか？

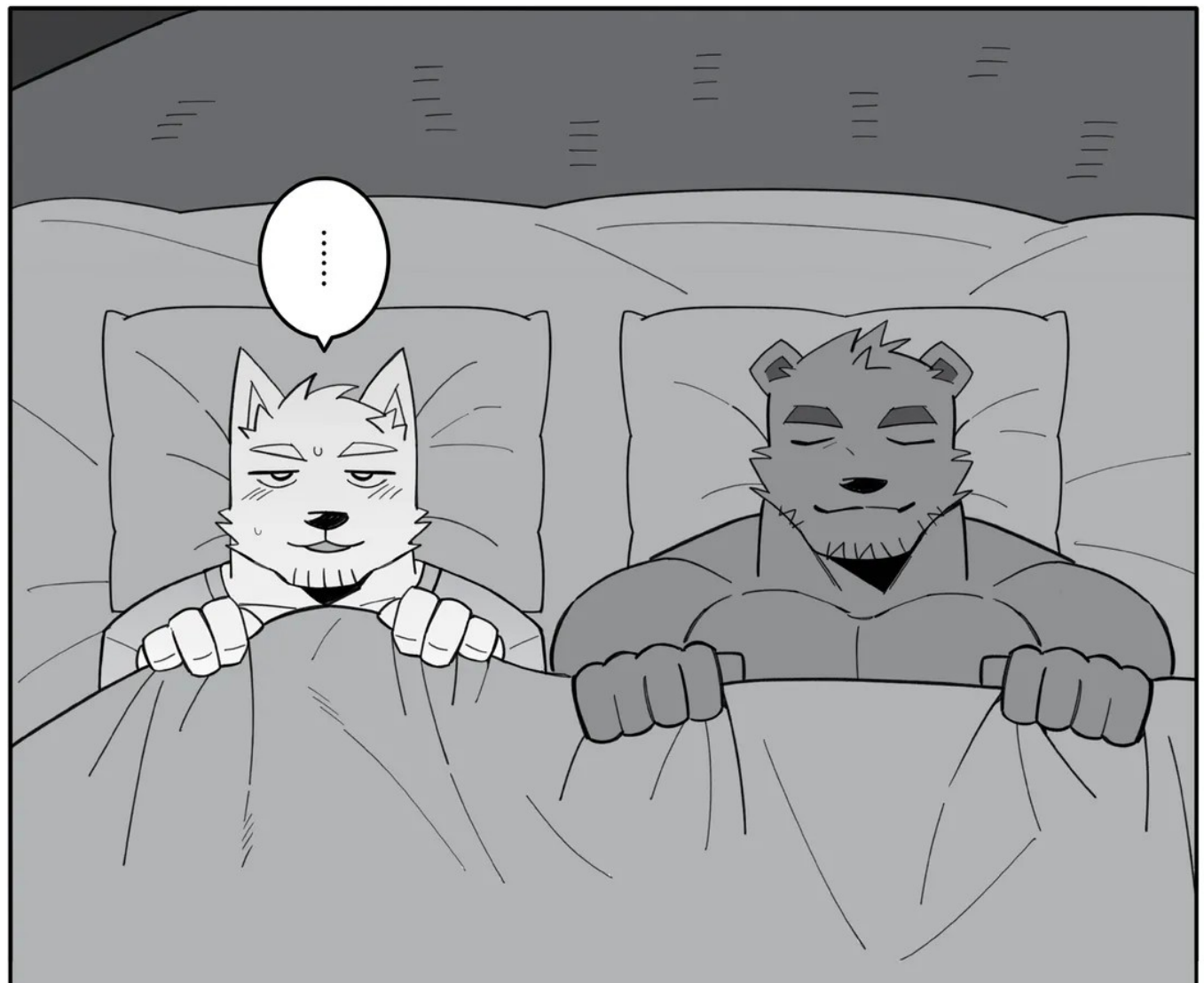


んーそうするか  
もう夜更かしとか  
出来る歳じゃ  
なくなつたしなー

そういうの…まだ  
早くないか俺たち？  
気持ちは分かるけど。

それじゃあ…  
消すよ。

おう。  
おやすみ！





眠れん…

……



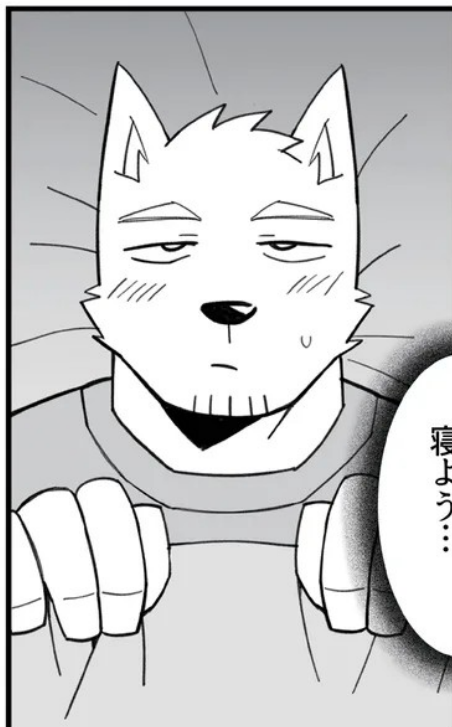
もういいか。  
じゃないか。

竜也の言った通り  
昔のことなんだ。



しようがないでしょ…  
あんな告白みたいなの  
こと言われちゃって…

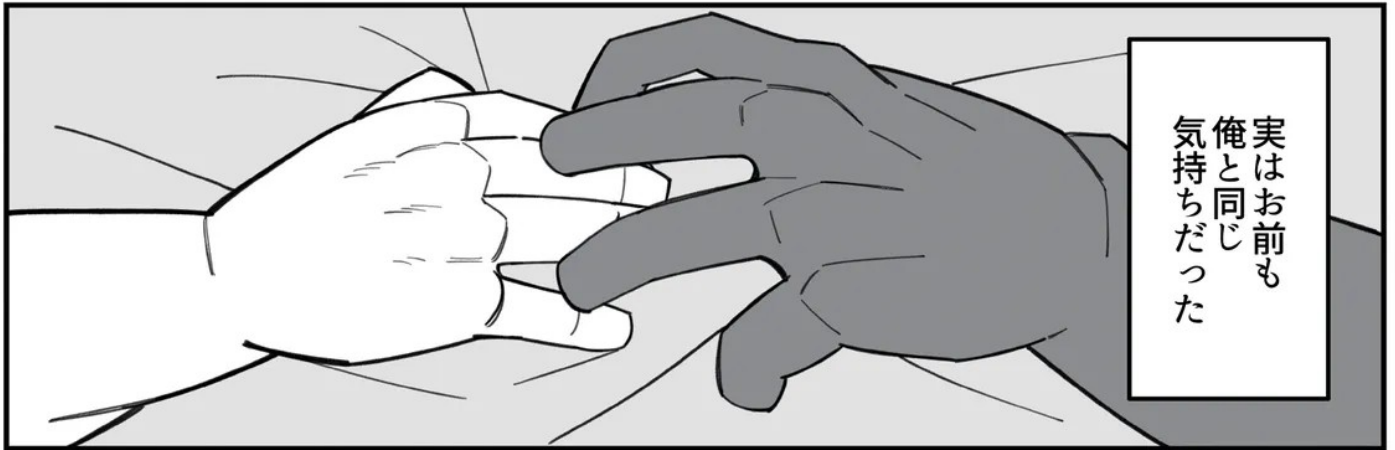
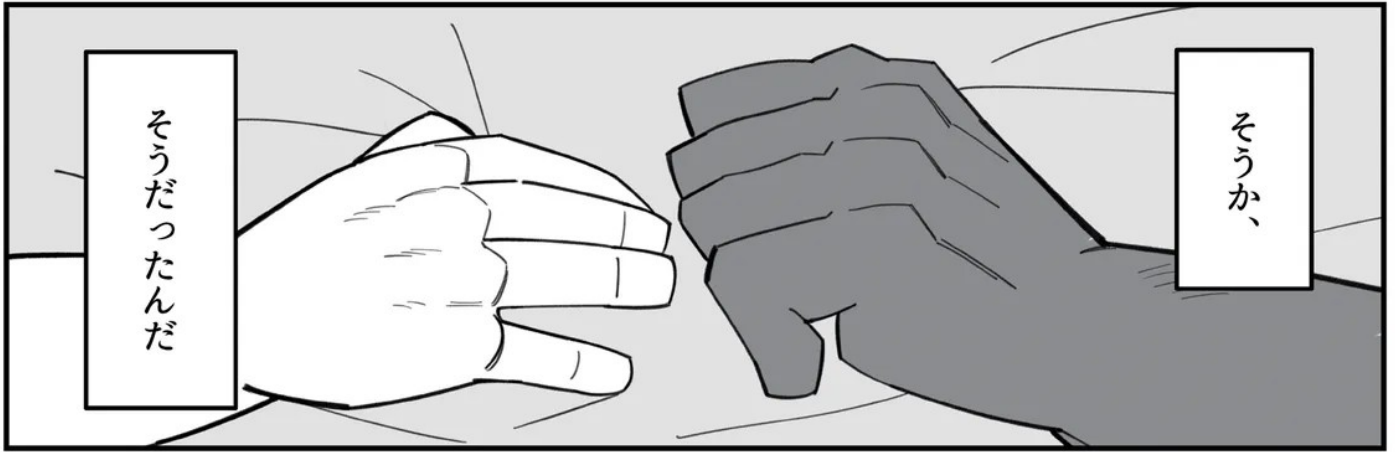
しかもそこで  
そんな反応しないーとか  
味気ない返事しか  
できなかったし…

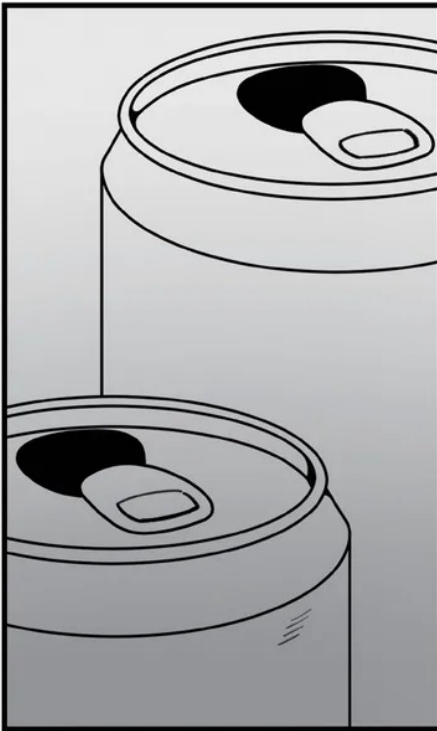


全部忘れて  
寝よう…

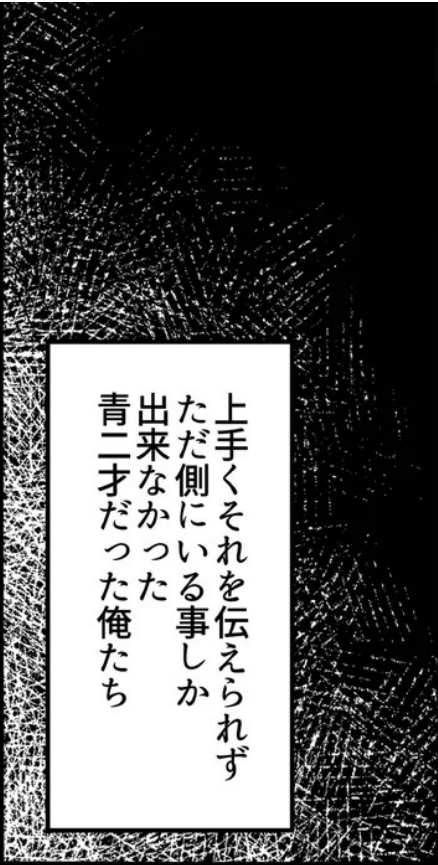




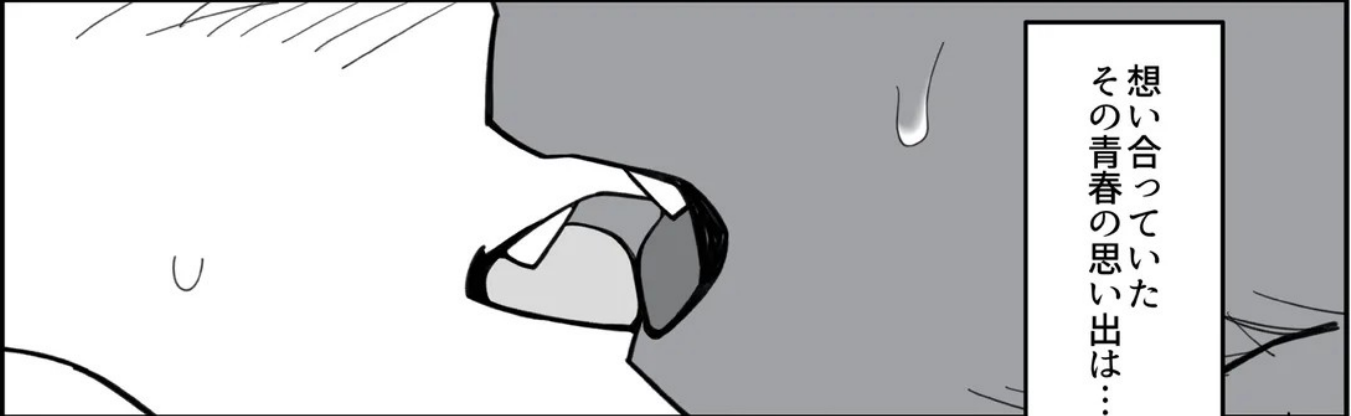





感謝、憧れ、そして  
それ以上の感情を  
抱きながらも



上手くそれを伝えられず  
ただ側にいる事しか  
出来なかった  
青二才だった俺たち

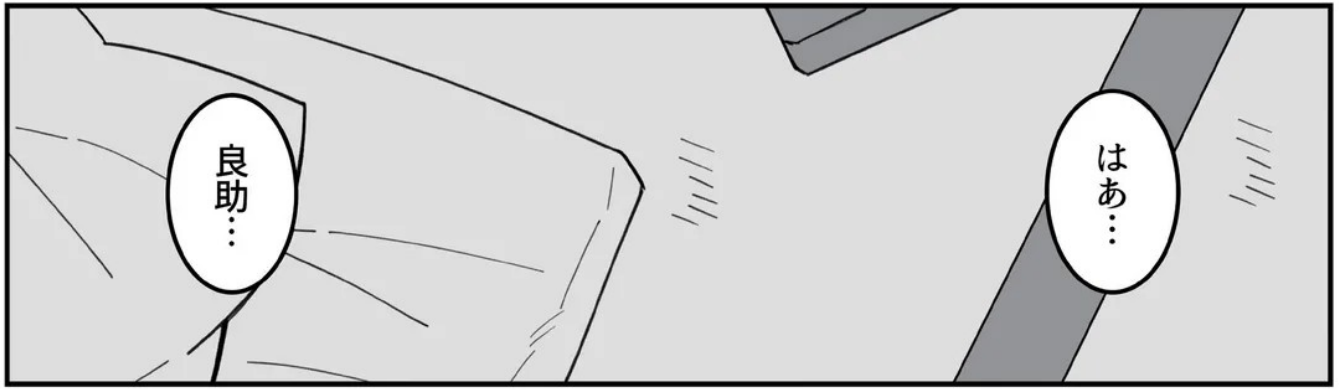


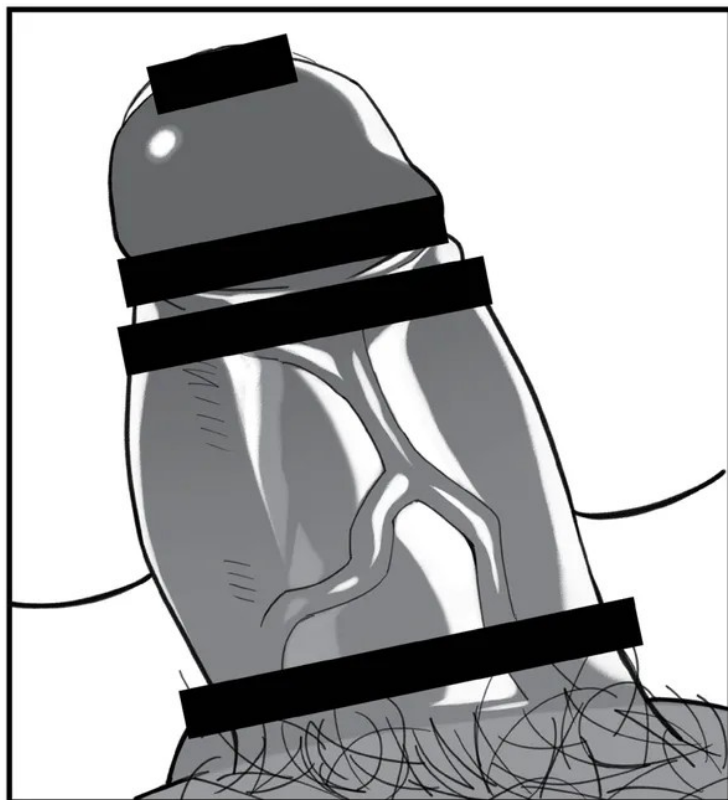
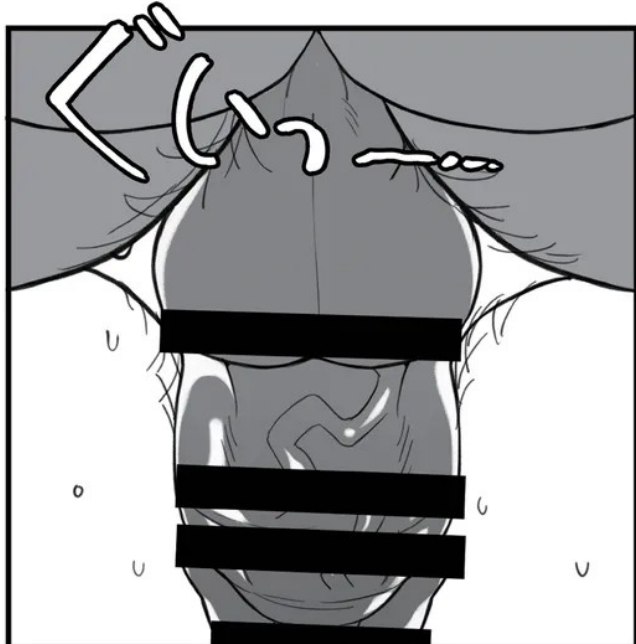
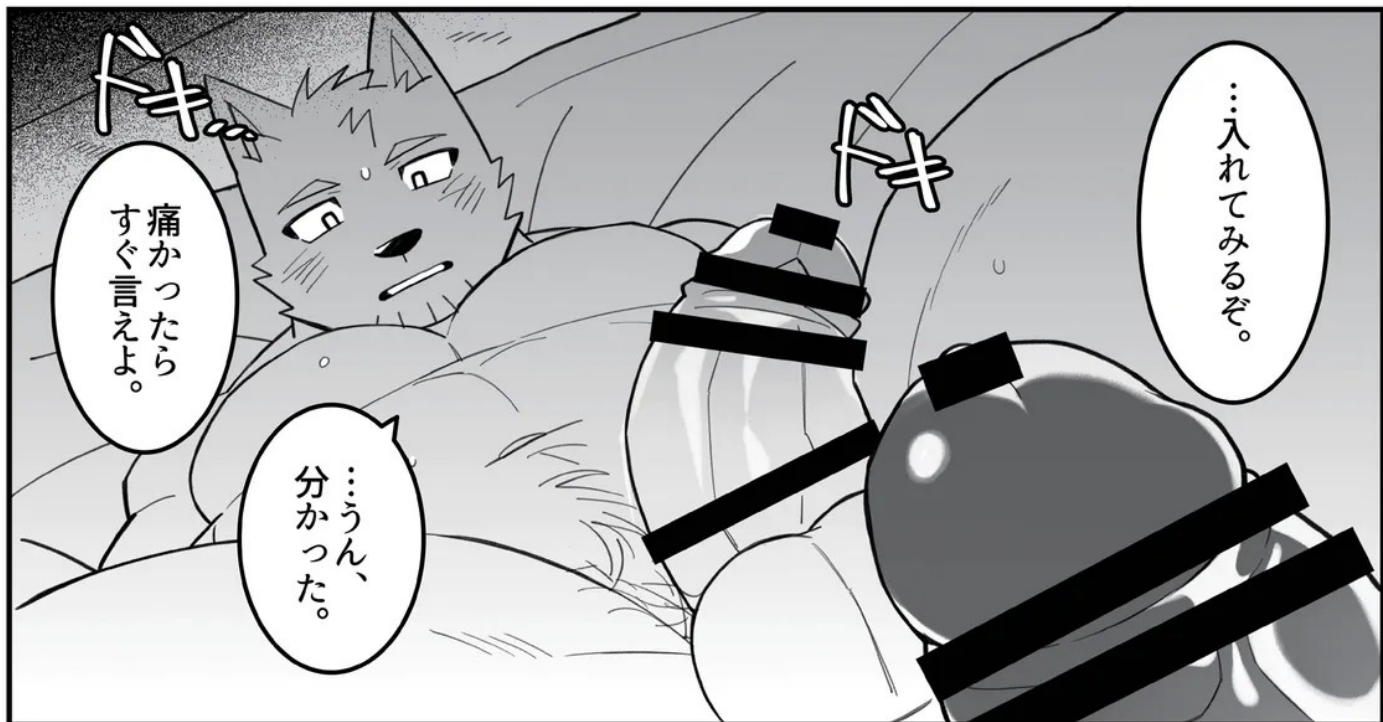
想い合っていた  
その青春の思い出は…



一生懸命書き、  
それでも…

送る事なく心の奥に  
しまっておいた  
青いラブレター  
だったかもしれない







だめだ…

力み  
すぎてる



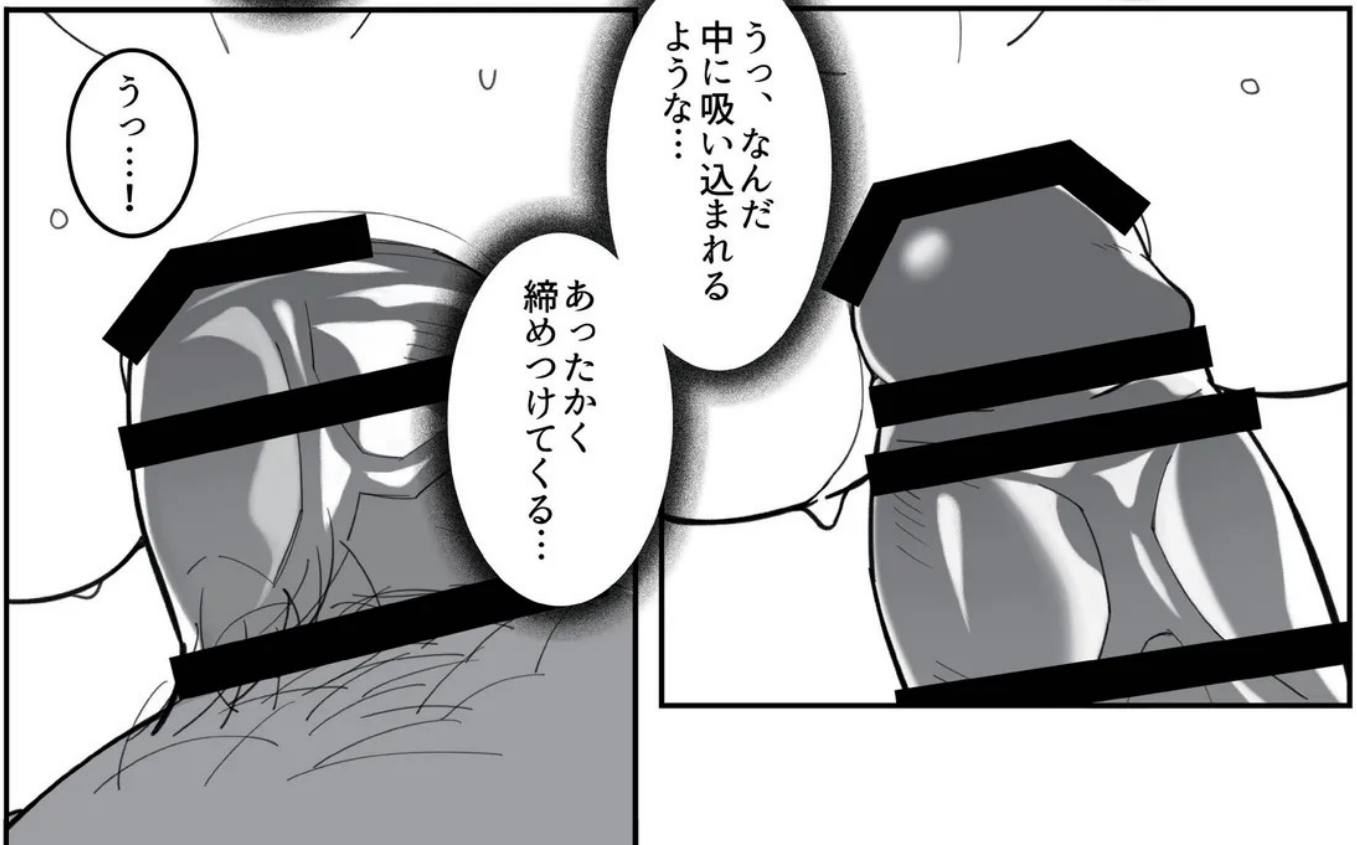
ゆっくり  
やるからな、  
良助。

ん…



緊張するな  
オレ…

急がず  
ゆっくり…



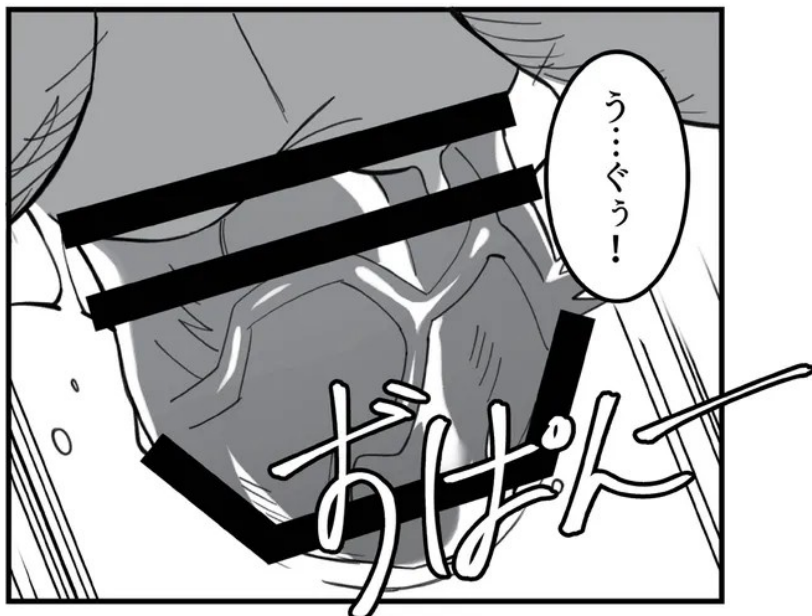
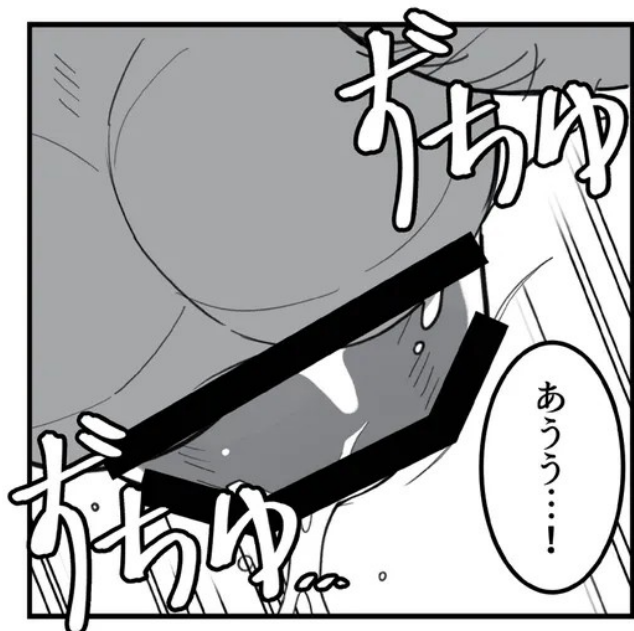
うっ、なんだ  
中に吸い込まれる  
ような…

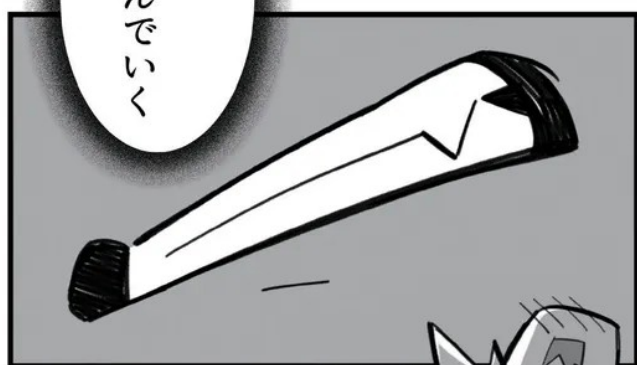
あつたかく  
締めつけてくる…

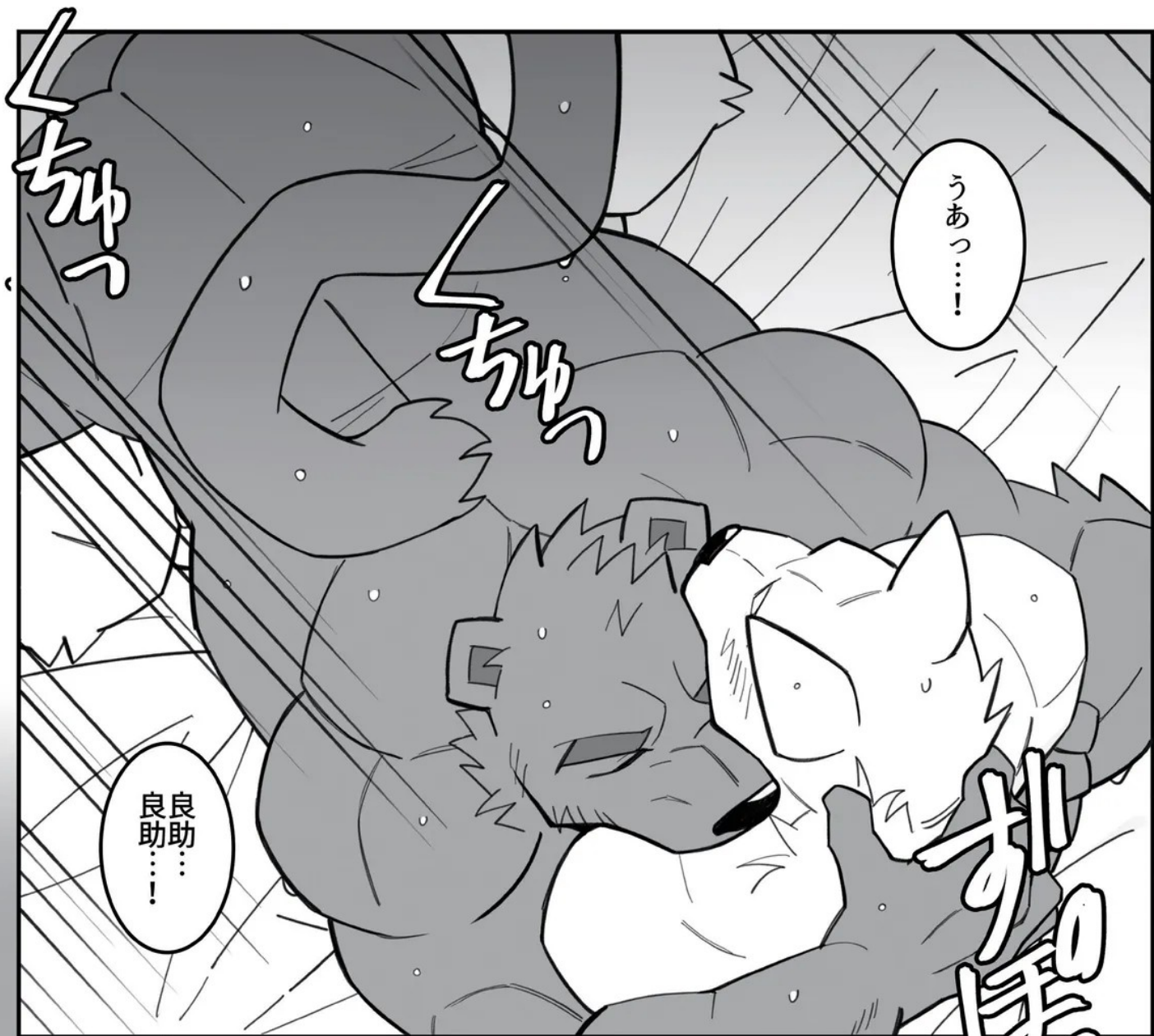
うっ…!













俺…  
竜也に犯されて  
興奮してる…

はあ…

思いつきり  
のしかかられて  
喘ぎ散らして…



もう、俺  
この感覚を  
知る前に  
戻れそうにない…



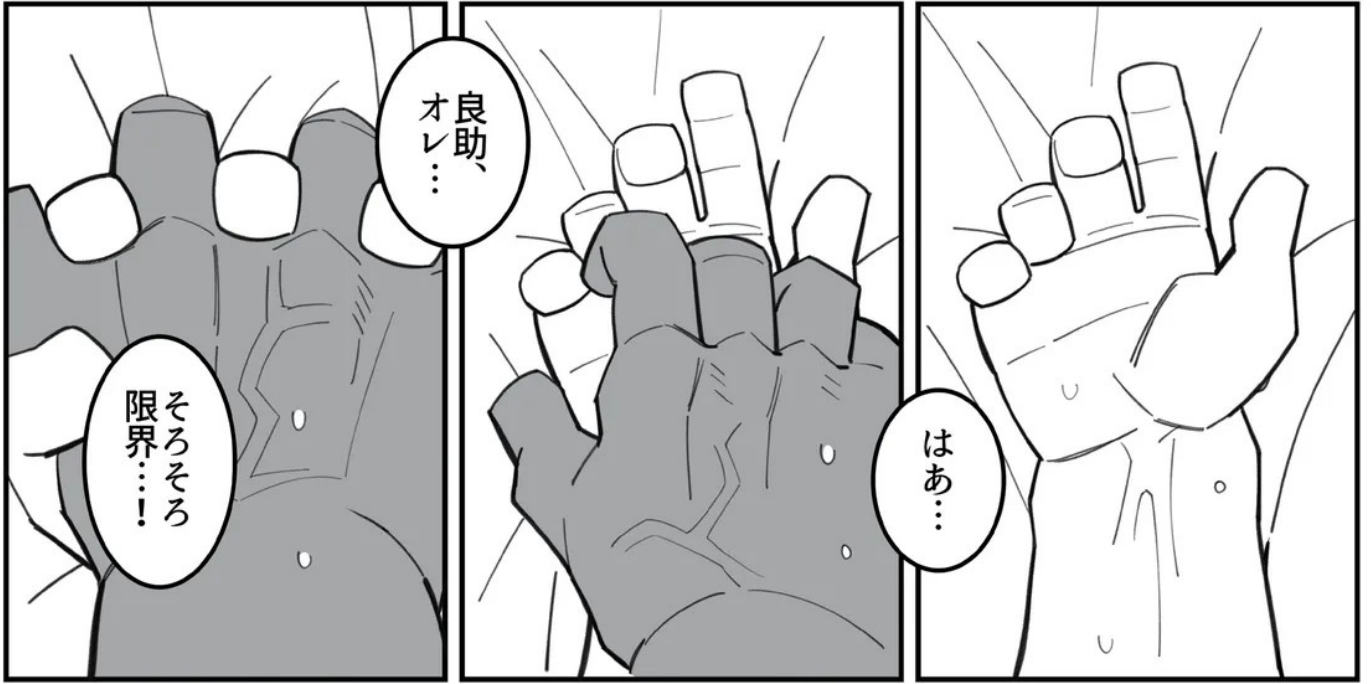
体中が痛いのに  
俺の頭は

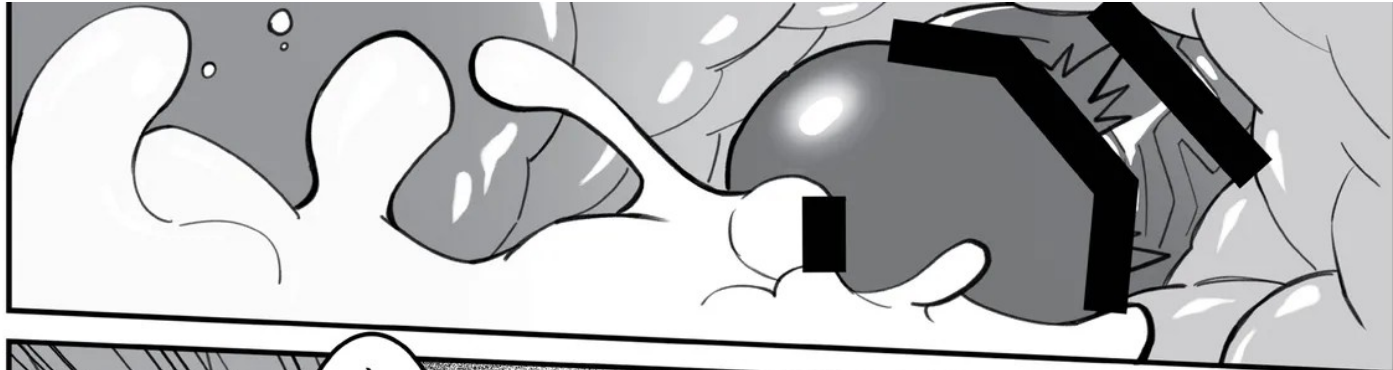
んんっ！

後ろが  
俺也のモノで  
満たされてる

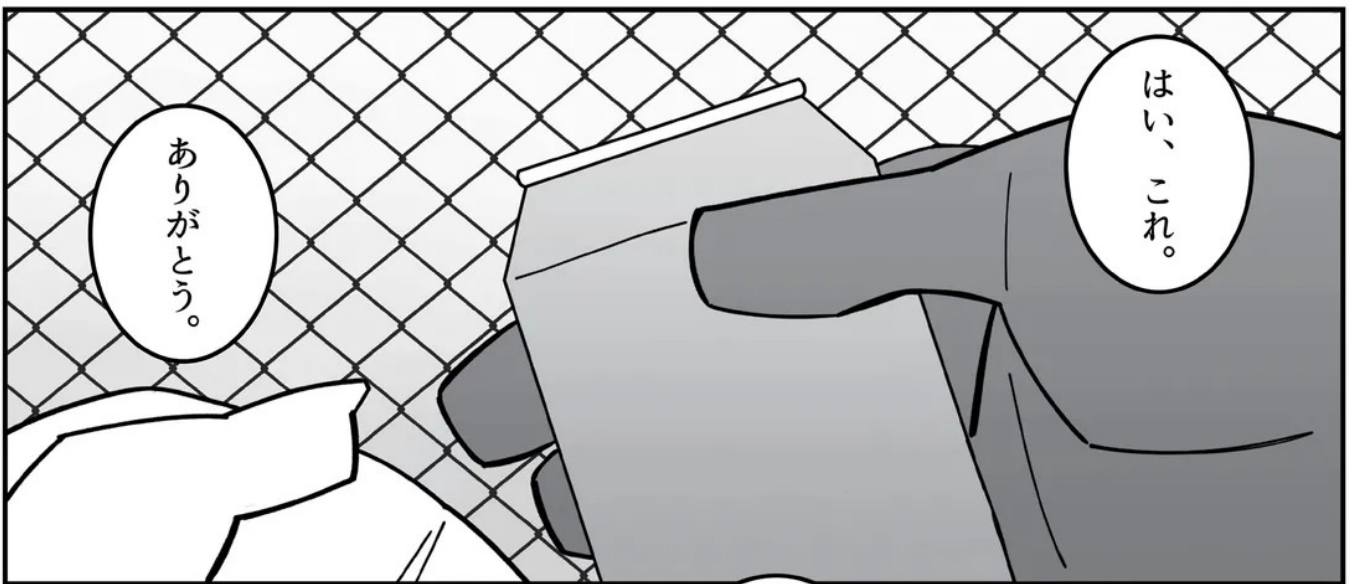
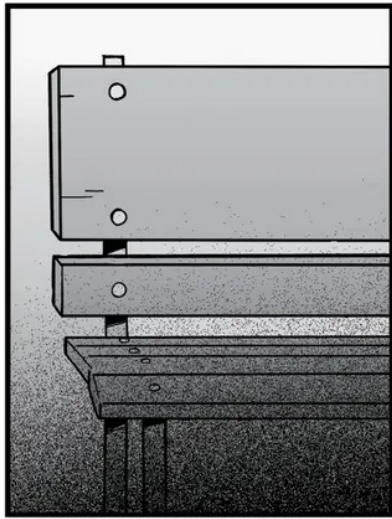
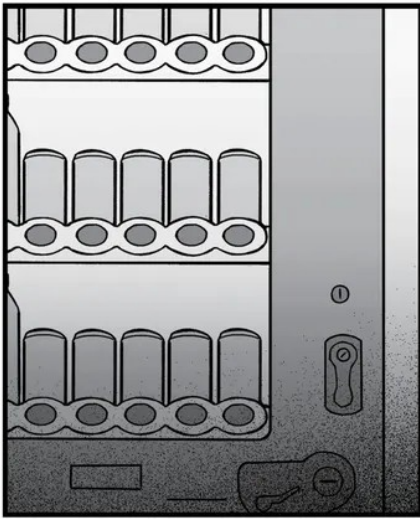
痛みと悦びしか  
考えてない…

くうっ！











…いや、  
過ぎたことを  
考えても  
仕方ないか。

はあ：  
これならさっさと  
言っちゃえば  
良かったな！

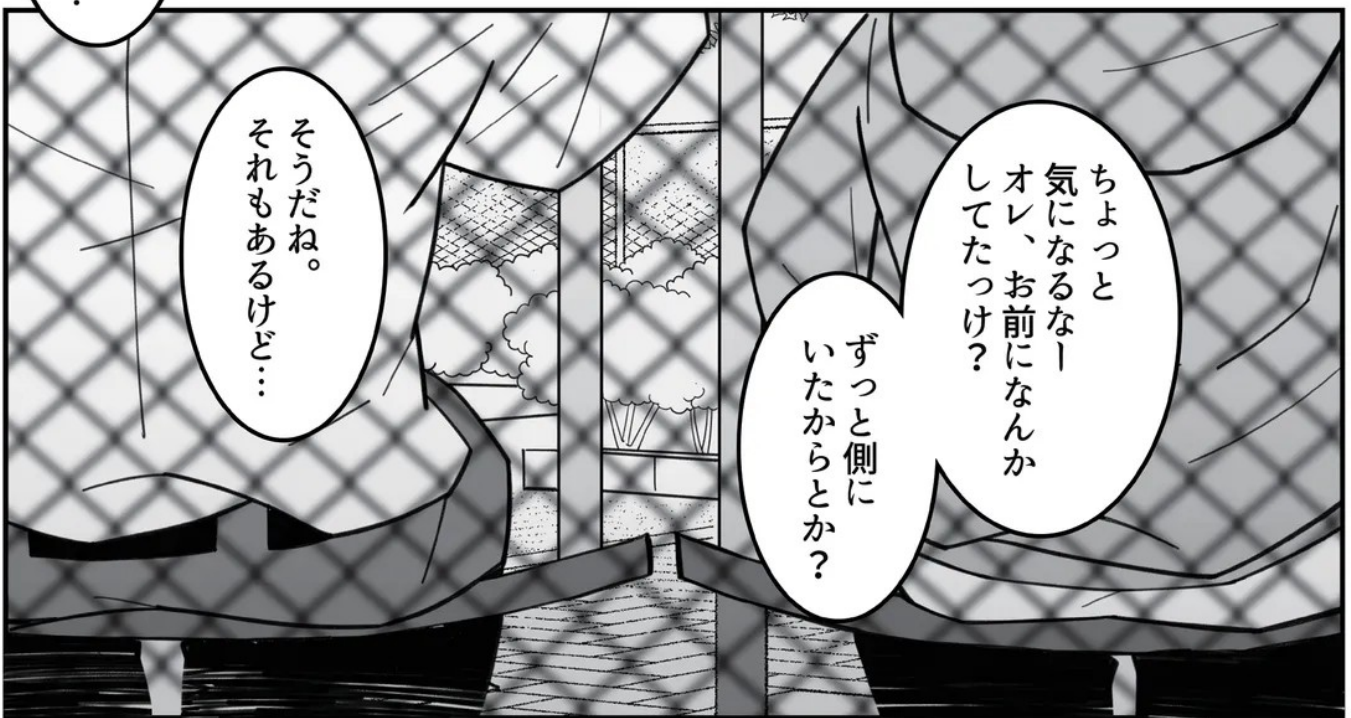


うーん  
そうだね…



お前はオレの  
どことが好き  
だったんだ？

…そういえば



そうだね。  
それもあるけど…

ずっと側に  
いたからとか？

ちよつと  
気になるな！  
オレ、お前になんか  
してたっけ？



それは…

けど…  
なんだ？



言うまでもなく…



次の話がずっと  
気になって  
たんだよー！



読み終わったかな  
どうだった？

うん！めっちゃ  
面白かった！



…それだけ？

もしかして  
何か適当に  
聞こえるんだが…

やれやれ…

素直じゃないね、  
今日の竜也は。



## 後書き

お久しぶりです。雨です。

まず、この本を手に取り、読んでくださった皆さん、ありがとうございます！

今回の本は2年くらい前、ラジオを聞いてたら何となく思いついて殴り書きしておいた素材を引っ張り出して完成したものとなります。

昔は後書きだけで1ページ埋めてたはずなんですが、最近はあまり長く書けないんですよね。年を取ると何事にも鈍感になるってよく聞きますけど、そういうことなんでしょうか。(最初に本を出したのが大学生時代で、今は会社員ですからねえ)

それでは、またいつかお会いしましょう。

## 訳者コメ

いつも雨さんの作品の翻訳を担当させて頂いてます、Sigmundと申します。

今作はやや難しい言い回しの多い作品でした。

なので原文をそのまま日本語に変えるのではなく、

言葉に含まれた些細なニュアンスを如何にして伝えられるかに重点を置いて翻訳したつもりです。

雨さんの描いた青い少年たちの恋心が、皆さんにもちゃんと伝われば幸いです。

この本を未成年の方が購入、所持する事は禁止されています。  
この本を購入できる成人が、未成年者の代わりに購入し、譲渡することも禁止されています。

無断転載、複製、複写、転売、インターネットへの掲載  
(SNS、オークション、プリマアプリなども含む) も禁止されています。

この本を購入、所持する事に対する責任は購入者にあります。  
何か問題が発生した場合、この本を販売した作家、イベント側は一切責任を負いません。

© 2025 雨 All rights reserved. all pictures cannot be use without permission



発行日：2025-05-18 (関西けもケット10)

印刷所：K9

発行者：雨

EMAIL：shirogom@naver.com

TWITTER(X)：@hachi\_duchi

2025

**HACHI**

ORIGINAL  
KEMONO COMIC

# あの時の 青いラブレター

—  
THE BLUE  
LOVE LETTER  
AT THAT  
MOMENT

あの時の  
青いラブレター

2025  
HACHI

R-18  
ADULT  
ONLY

THE BLUE LOVE LETTER AT THAT MOMENT